

飲み薬の選び方まとめ（体重・腎臓・心血管・低血糖の観点）



安全第一。効果だけでなく、体重、腎機能、心血管・腎保護、低血糖リスクを踏まえて個別に設計します。自己判断での中止・増減は避け、必ず医師と相談してください。

施設名称：医療法人社団悠鳳会 0th CLINIC (ゼロスクリニック)

〒103-0027 所在地：東京都中央区日本橋二丁目16番9号 CAMCO日本橋ビル4階

電話：03-6281-9280 FAX：03-6281-9281 Email：info@0thclinic.com

A. まずの考え方

- ・HbA1cだけでなく、体重・腎機能（eGFR）・低血糖リスク・合併症（ASCVD・心不全・CKD）で薬を最適化します。
- ・同じ薬でも“使い方”で効果と安全性は変わります。腎機能低下時は用量調整や薬剤変更を検討します。

B. 薬剤クラス別 ざっくり比較（経口）

薬剤クラス	体重への影響	低血糖リスク	腎機能の注意	心血管・腎保護
ビグアナイド（メトホルミン）	やや減少・中立	低い	eGFRに応じ用量調整。高度低下では禁忌。	一部で心血管有益性の示唆。
SGLT2阻害薬	減少	低い（単剤）	eGFR依存で効果低下。低すぎる場合は非推奨。	心不全・腎保護で強いエビデンス。
DPP-4阻害薬	中立	低い	多くは腎機能で用量調整（例：リナグリプチンは不要）。	心血管安全性は概ね中立。
-グルコシダーゼ（-GI）	中立	低い	腎障害時は慎重。消化器症状に注意。	心血管アウトカムは中立。
チアゾリジン（ピオグリタゾン）	増加のことあり（浮腫）	低い	浮腫・心不全に注意。骨折・体重増加の可能性。	脳梗塞再発抑制の示唆あり。
SU薬（グリメピリド等）	増加傾向	高い	腎機能低下で低血糖リスク。少量から慎重に。	心血管益は限定的。
グリニド	中立～増加	中等度（食後低血糖）	腎機能での蓄積に注意。	エビデンスは限定的。
経口セマグルチド（リベルサス）	減少	低い	腎機能低下時は脱水に注意（嘔気等で）。	体重減少・心血管リスク低下の示唆。

C. 状況別の考え方（目安）

状況	考え方（例）
体重を減らしたい	SGLT2または経口GLP-1（リベルサス）を第一候補。メトホルミンも併用で相性が良いことが多い。
低血糖を避けたい	DPP-4・SGLT2・メトホルミン・経口GLP-1を優先。SU・グリニドは少量から慎重に。
腎機能が落ちている	eGFRに応じて用量調整。SGLT2は所定のeGFR未満では新規開始非推奨。DPP-4は製剤により調整幅が異なる。
心不全やCKDがある	SGLT2を強く検討。利尿・腎保護の恩恵。浮腫がある場合はチアゾリジンは慎重。
ASCVD（心筋梗塞・脳梗塞など）	体重や低血糖リスクをみて、SGLT2や（注射の）GLP-1を検討。経口GLP-1も体重低下に寄与。

D. 併用時の注意（例）

組み合わせ	注意点
SGLT2 + 利尿薬	脱水・血圧低下に注意。発熱・嘔吐・下痢時は“シックデイルール”に従い一時中止を検討。
メトホルミン + 腎機能低下	eGFRで用量上限を守る。造影検査前後は中止指示が出ることあり。
SU/グリニド + DPP-4	低血糖リスクが上ることがあり。SU/グリニド側を減量。

この資料は一般的な目安です。合併症や他の薬との相互作用、妊娠希望の有無などにより選択は変わります。必ず診察時に個別調整します。

改訂日：2025-11-02 | 提供：施設名称：医療法人社団悠鳳会 0th CLINIC（ゼロクリニック） | 〒103-0027
所在地：東京都中央区日本橋二丁目16番9号 CAMCO日本橋ビル4階 | 電話：03-6281-9280